

株式会社インテリジェント ウェーブ

第35期 上半期 事業のご報告

2017.7.1 ▶ 2017.12.31

株主通信 VOL. 34



代表取締役社長
い せ き つかさ
井関 司

2018年6月期上半期の振り返りを お願いします。

売上高は前年同期比で二桁の増収となりました。金融システムソリューション事業では、キャッシュレス社会の推進や決済手段の多様化を背景に、クレジットカードやスマートフォン決済の利用に係るシステム開発が増加しました。プロダクトソリューション事業では、サイバーセキュリティ関連製品の販売拡大が増収に寄与しました。

一方、利益については、金融システムソリューション事業における大型開発プロジェクトの一部工程が不採算化し、当第2四半期に受注損失引当金を計上することとなった影響により、営業利益、経常利益、四半期純利益ともに前年同期比で減益に終わりました。

上半期のこうした状況を踏まえ、通期の業績予想については、売上高を上方修正し、営業利益、経常利益、当期純利益を下方修正しています。

2018年6月期 通期業績予想（単位：百万円）

	期初予想	修正予想	増減
売上高	9,000	9,700	700
営業利益	850	480	△ 370
経常利益	870	500	△ 370
当期純利益	600	340	△ 260

減益の要因となった大型プロジェクト の状況についてお聞かせください。

本プロジェクトは、従前より継続して取組んでいる国内クレジットカード会社向けの開発案件で、2021年までの約5カ年にわたる大規模なものです。当社は、一連のプロジェクトを工程ごとに細かく区分し、厳格な進捗管理を行っていますが、今回、この一部工程において、当初の想定を超える工数が発生する見込みとなりました。状況改善への見通しは立っており、現状ではプロジェクト全体の計画及び今後の進行に大きな影響はないものと考えています。

当期においては、業績予想の修正によりご心配をおかけしましたが、今回の反省を糧として一層の品質強化を図ることで、プロジェクト管理の徹底と業績回復に努めてまいります。

中期事業計画の進捗について 教えてください。

金融システムソリューション事業においては、ストック型ビジネスの比率拡大を目指す中、クラウドサービスに係る売上高が順調に伸長しています。クレジットカード加盟店契約業務（アクワイアリング業務）のクラウドサービスである**IOASIS**（アイオアシス）の採用は4社に拡大しました。また、不正検知システム**ACEPlus**（エースプラス）のクラウドサービスである**IFINDS**（アイファインズ）についても、2社の採用が決定しています。さらに、NET+1（ネットプラスワン）のゲートウェイ機能を継承した**OnCore Switch**（オンコア スイッチ）のクラウドサービスである**IGATES**（アイゲイツ）についても、既に2社の

導入が確定しており、これら3つのサービスによる事業拡大は順調に推移しています。

プロダクトソリューション事業においては、情報セキュリティ対策製品の販売強化に注力しています。高度な技術を持ったクラッカーの手動による攻撃を検知する製品Deceptions Everywhere（ディセプションズ エブリウェア）は、国内大手金融機関への導入が決まりました。その他にも、サイバー攻撃への対応を自動化するSOC/CSIRT向け製品eyeShare（アイシェア）など、最先端技術を駆使したイスラエル製の高機能な製品群を開拓しています。情報セキュリティにおける様々な脅威に対応できる製品やサービスの拡充により、『サイバーセキュリティの総合プロバイダー』としての地位確立に向けた取組みを着実に進めています。

 「中期事業計画の達成に向けた取組み」

新たな成長のための施策についてはどのように考えていますか？

当社の強みであるゲートウェイ技術や高速情報配信技術は、これまで金融機関に対するサービス提供に限られていましたが、より広い業界での活用を視野に4つのプロジェクトを立ち上げ、事業化に向けた活動を進めています。

①IoTの分野では、NET+1に係る技術基盤の一つである暗号鍵管理に着目し、他業種への応用を考えています。例えば、製造業に対して、工場内における機密データなどを暗号化する仕組みを構築し、既に導入実績を上げています。

②高速情報配信技術を証券会社から放送業界へ転用し、画像や音声に係るデータ処理の遅延を解消するシステムとして販売することを計画しています。現在進めている実証実験において成果が得られれば、国内外を問わず広く展開できるものと期待しています。

③トレーディング機能を備えた証券フロントシステムの販売を強化しています。当社が従前より手掛けてきた情報系システムに加え、新たに執行系システムへの機能拡張を実現させる商

材として、顧客層のさらなる拡大につなげていきたいと考えています。

④AI（人工知能）の技術を活用した取組みとしては、既に損害保険会社の業務効率化を支援する製品を販売しています。今後は、業界を問わず汎用的な利用機会を検討することで、さらなる領域拡大を目指していきます。

まずは、これら4つのプロジェクトについて、取組みの成果をしっかりと見定めるとともに、今後も新たな成長の種を常に模索し続けていきます。

下半期の重点施策についてお聞かせください。

当社の主力製品であるNET+1とACEPlusの全面リニューアルに着手します。販売開始以来、顧客の要望に応じて幾度も改修を繰り返してきましたが、これからの10年、20年を見据え、変化に柔軟に対応できるIT基盤へと進化させていきます。ともにオープン系で開発しますが、当社にはOSの種類、ハードに関わらず、「止まらないシステム」の構築を前提とする思想が脈々と受け継がれており、この特長は、今後も競争力の源泉であり続けると確信しています。

最後に株主の皆さまへのメッセージをお願いします。

中期事業計画では、売上規模の拡大、次世代の人材育成、風土改革の「進化3way」をテーマに掲げています。売上規模の拡大については、社長就任初年度には売上高70億円、翌年は80億円という目標を達成し、当期も期初予想の90億円を大きく上回る見通しです。また、こうした成果に伴い、風土改革の意識も社内に浸透しつつあると実感しています。

中期的な目標としている売上高100億円超への道は、確かな足取りで進んでいます。株主の皆さまにおかれましては、引き続きご支援のほどお願い申し上げます。

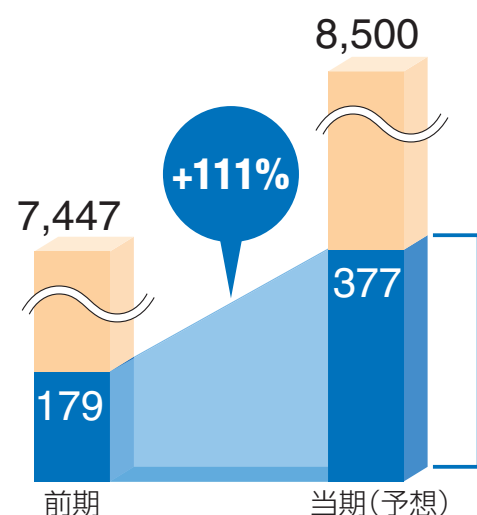
中期事業計画の達成に向けた取組み

金融システムソリューション事業

クラウドサービス事業の売上高は、前期比111%増と順調に伸びています。このサービスは複数年契約のため、導入企業は階段状に積み上がっていきます。中期的な成長につなげるべく、今後も着実に受注を積み上げていきます。

売上高 (単位:百万円)

■ クラウドサービス事業



クラウドサービス
導入社数(採用確定先)

■ IOASIS
■ IFINDS
■ IGATES



前期

当期

来期

プロダクトソリューション事業

従来取扱ってきた製品に新たな領域の製品を追加することで、顧客のセキュリティ対策の強化に対応します。製品の拡充に加え、コンサルティングなどのソリューションビジネスも強化することで、『サイバーセキュリティの総合プロバイダー』を目指します。

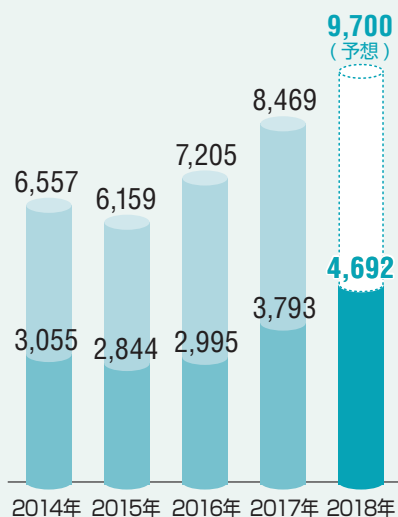
運用 監視、SOC	支援サービス			
インシデント対応 外部連携	eyeShare™ (アイシェア)			
動作の阻止				
レポート フォレンジック				
管理者への通知	CWAT® (シーワット)	Traps (トラップス)		Deceptions Everywhere® (ディセプションズ エブリウェア)
攻撃を検知				SECBI (セックビーアイ)
機能 脅威	内部 情報漏洩	侵入 脆弱性攻撃 標的型攻撃	ランサムウェア などのマルウェア	手動による 攻撃者操作 横展開/汚染
	内部犯行	外部からのサイバー攻撃		
				大量のログデータに 隠れた脅威

決算ハイライト (単位：百万円)

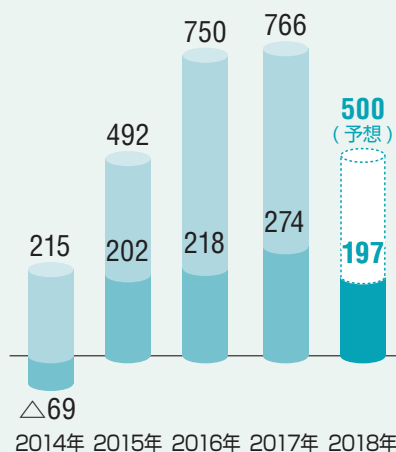
※個別業績の数値を掲載しています。

■ 上半期 ■ 通期

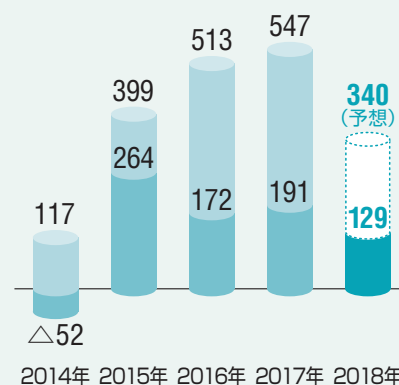
売上高



経常利益



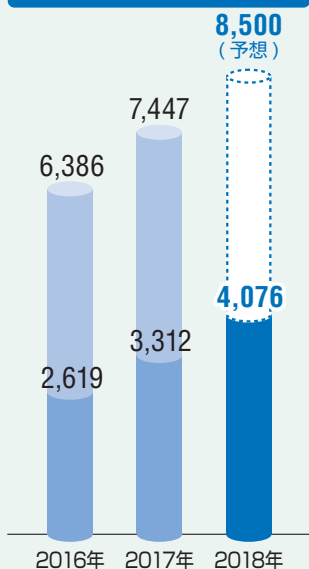
四半期(当期)純利益



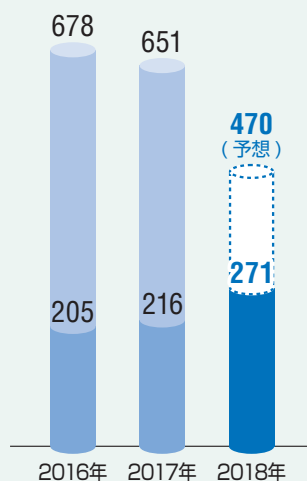
金融システムソリューション事業

■ 上半期 ■ 通期

売上高



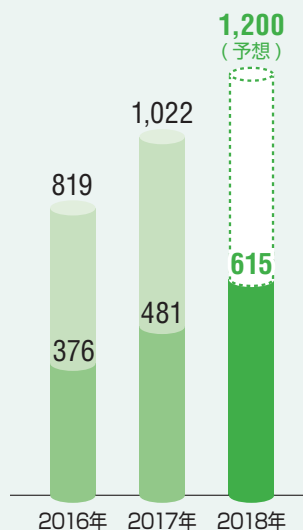
営業利益



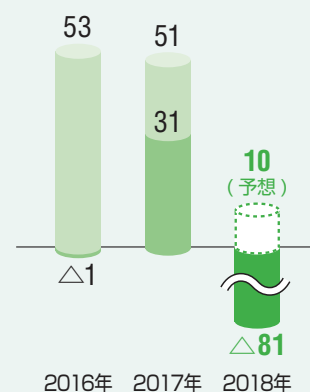
プロダクトソリューション事業

■ 上半期 ■ 通期

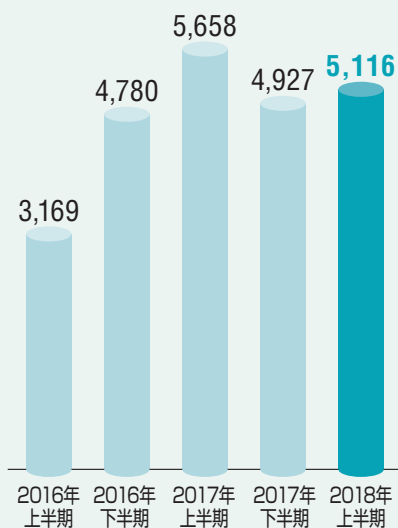
売上高



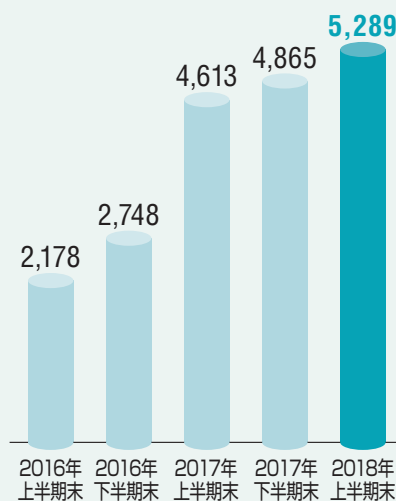
営業利益



受注高

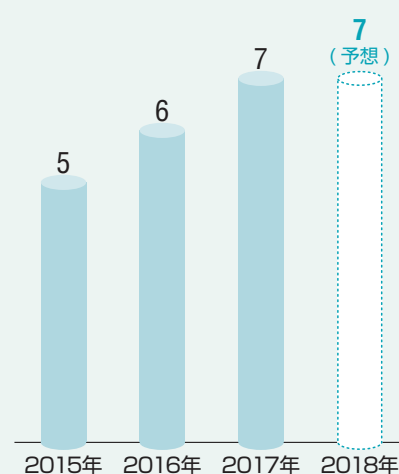


受注残高



配当金

(単位：円)



貸借対照表

	2017年6月期 期末	2018年6月期 上半期末
流動資産	4,984	5,228
固定資産	3,523	3,990
資産合計	8,508	9,218
流動負債	2,252	2,666
固定負債	608	747
負債合計	2,860	3,414
純資産	5,647	5,804
負債純資産合計	8,508	9,218

損益計算書

	2017年6月期 上半期	2018年6月期 上半期
売上高	3,793	4,692
売上原価	2,879	3,669
売上総利益	913	1,023
販売費及び一般管理費	666	833
営業利益	247	190
経常利益	274	197
税引前四半期純利益	274	196
四半期純利益	191	129

キャッシュ・フロー計算書

	2017年6月期 上半期	2018年6月期 上半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,172	171
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,151	△296
財務活動によるキャッシュ・フロー	△198	△330
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	△0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△174	△455
現金及び現金同等物の期首残高	2,752	2,578
現金及び現金同等物の期末残高	2,578	2,122

会社概要

設 立 年 月 1984年12月
資 本 金 8億4,375万円
従 業 員 数 354名
ウェブサイト <http://www.iwi.co.jp>

取締役及び監査役

代表取締役社長	井関 司	取 締 役	渡部 晃
専 務 取 締 役	垣東 充	取 締 役	三木 健一
専 務 取 締 役	大山 景司	常 勤 監 査 役	白杉 政晴
常 務 取 締 役	生井 康一	監 査 役	小堀 秀明
常 務 取 締 役	立野岡 健一	監 査 役	大西 恭二
取 締 役	松田 剛	監 査 役	櫻井 通晴
取 締 役	土井 一郎	監 査 役	佐藤 宏
取 締 役	川上 晃司		

株式の状況

発行済株式の総数 26,340,000株
株 主 総 数 9,927名

大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
大日本印刷株式会社	13,330,700	50.61
安達 一彦	2,544,100	9.66
インテリジェント ウェイブ 従業員持株会	414,900	1.58
株式会社SBI証券	322,400	1.22
溝田 元一	301,000	1.14

株主メモ

事 業 年 度 毎年7月1日から翌年6月30日まで

定 時 株 主 総 会 毎年9月

期末配当の基準日 6月30日

株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
事 務 取 扱 場 所 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

電子公告により行います。
(<http://www.iwi.co.jp>)

公 告 方 法 但し、事故その他やむを得ない事由によって
電子公告による公告をすることができない場
合は、日本経済新聞に掲載いたします。